大阪の建築 まちあるき ――「みしま野」

カトリック高槻教会（かとりっくたかつききょうかい）―高山右近に縁ある地に建つ教会―

緑青のドームが印象的なカトリック高槻教会

跪いて祈りを捧げる高山右近像（イタリア大理石製）

シンプルでリズミカルな破風（レーキングコーニス）の意匠

円とアーチで構成された正面意匠

所在地：　大阪府高槻市野見町 2-26
最寄駅：　阪急電車 高槻市駅下車
　　南へ徒歩約８分
見　学：　教会にお尋ねください
TEL：　072-675-1472

永井神社、旧笹井家、旧工兵第四聯隊兵舎営門と書き連ねてきた高槻城の「しろあと公園」前シリーズも現代建築を除けば愈々、最後の建物となる。今回の建物は小規模であるが、瀟洒な佇まいを持った教会堂、「カトリック高槻教会」である。

戦国時代の武将でキリシタン大名でもあった高槻城主の高山右近は、信仰するキリスト教を布教するために高槻城の近くに高槻天主教会堂を建設した。宣教師ルイス・フロイスの記録にも記載されている程に、大きな教会堂であったとされており、キリスト教の側から見ればその貢献度は大きかったと言われている。一方で高山右近はキリスト教に信奉するあまり、近郊の社寺を打ち壊し、仏像を打ち捨てた傍若無人な領主であったとする記録も残っており、事実、高槻には畿内であったにも関わらず、古い仏像等があまり残っていない。高山右近は織田信長・豊臣秀吉に仕えたが、秀吉のバテレン追放令により高槻の地を追われ、やがて、右近が建設した天主教会堂は取壊されてしまう。カトリック高槻教会は高山右近が嘗て建てた天主教会堂の跡地付近に建っている。

カトリック高槻教会は阪急電車を下車して「しろあと公園」に行く道すがら、これまでに紹介してきた建物の内、一番に目に飛び込んでくる建物である。戦後日本の意気消沈した空気を浄化しようと、カトリックの大司教達が知恵を出し合って、大阪・京都の中間地点である高槻の地に高山右近記念聖堂を建設しようとしたのが発端。仮設的に一旦、聖堂を建設するが、やがて、1962年3月に現在の聖堂が竣工する。白い壁に緑青のドーム屋根が印象的なこの聖堂は現在、竣工後48年が経過したことになる。

高槻を追われた高山右近は加賀前田家に身を寄せ、金沢城の築城に携わりその技量を遺憾無く発揮するが、やがて徳川家康のキリシタン追放令によってフィリピン・ルソン島のマニラ近郊へと国外追放される。カトリック高槻教会は右近が終焉を迎えたマニラ近郊にある聖母大聖堂の意匠を踏襲して設計されたと言われている。教会聖堂の意匠はシンプルであるが其処彼処に伝統的な意匠が鏤められており、建物の歴史は未だ浅いが年台ものの風格を備えている。設計者や施工者については詳らかではないが、入念に練り上げられた設計者の我が意を得たりと得意そうに笑う顔が浮かんできそうである。　（神保　勲）